

留学先大学：BESIGN The Sustainable Design School 大学

氏名：篠田泰成



今月は Emotional Response というコースについて紹介したいと思います。通常の授業であれば2回から4回ほどで終わるようにカリキュラムが組まれるのですが、このコースは半年間を通して定期的に組まれています。日本の大学における履修形態とはやはり大きく異なるのでなんとも形容しにくいのですが、学年終わりの簡単な卒業制作だと理解していただいて問題ありません。

具体的な課題文が与えられるわけではなく、先生の制作したプレゼンテーションを観て、生徒が各自のテーマを設定します。唯一必要とされているのは"WOW DESIGN"というキーワードでした。人の感情に強く触れることができるデザインをして制作をして、発表日に模型ではなく実物を持ってくるというものです。スケールはもちろん1/1で、製品として正しく機能する"本物"を用意することが必要です。いずれにせよテーマはやはりぼんやりとしている印象で、課題を自分なりに噛み砕いて翻訳して、自らの解像度に落とし込む工程が1番楽しくて難しいコースだなと個人的には感じました。

ここからは私の制作を紹介します。

私は将来、広告デザインに関わりたいという思いから広告制作を通して"WOW DESIGN"を実現させることにしました。社会に向けた環境メッセージ広告で、実際に自ら映像を撮影して編集する動画広告です。タイトルは"Respect What"として、環境問題に対してどのように向き合うかとか、あなた自身の選択や尊重の結果

が未来の環境を作っているとか、あなた自身が今この瞬間も環境破壊に携わっている当事者なんだよといったメッセージをダイレクトに表現しています。

私の制作は、実際のアクティビティをデザインし、その様子を撮影することによって成り立っています。写真のようにコンクリートで壁を作り、地球をペイントし、その上に Respect What?の文字を掘ります。そこに演者を呼び、インタビューをした後でハンマーを渡し、自らの手で地球を破壊してもらいます。インタビューでは、あなた自身が普段なにを尊重しているのか、地球を犠牲にしてまであ



かたが優先しているちっぽけなエゴを考えていただきました。その状態でハンマーに握らせ、その葛藤の様子や表情がそのまま環境広告になるというものです。

結果としては無事に成功することができました。動画終了後にはたくさんの拍手をいただきました。間違いなくセンシティブな内容に躊躇いなく踏み込んだものでしたし、Emotional Responseで一般的に好まれる感情は純粋な驚きや喜びや楽しさというものであるため、わたしが選んだ真面目な後悔という暗い作品は若干の注目を浴びました。ちなみに他の人で多かったのはランプの制作です。スチッチではなく、予想外の操作でランプが点灯する仕組みをデザインすることで WOW を産むものです。例えば、鳥かごの枝木に鳥が止まるとモーションセンサーでライトが点灯するものとか、けん玉のような玩具を作り、それに成功すると回路が接触してライトがつくもの。などがありました。

総じて、非常に楽しいコースでしたが、フランスで模型制作に徹することは容易ではありませんでした。日本であれば車を使って材料を運ぶこともできますし、ホームセンターや画材屋に行くことも簡単ですが、知らないフランスの地ではそんなちょっとしたことが難しいのです。工房の規模も日本と比べて小さいため、日本で問題視しなかった当たり前が小さな障害になってしまうトラブル続きの毎日でした。コースの本題とは外れるかもしれませんが、このコースではデザインスキルだけでなく、問題対処能力やコミュニケーションも試されているような感覚があります。日本の卒業制作では経験できない学びが確かにあったことを非常に嬉しく思います。

